

第41回熱シンポジウム「みつける・つくるバイオクライマティック建築」

バイオクライマティックデザイン小委員会では、書籍「設計のための建築環境学 みつける・つくるバイオクライマティックデザイン」(彰国社)を2011年5月に刊行した。本書は、当小委員会での数年来の活動成果である。本書を切っ掛けとして、バイオクライマティックデザインが学生や建築設計者に広く認識され、質の高い環境建築の普及が促進されることを期待している。

本シンポジウムでは、書籍のタイトルにもある「みつける・つくる」をメインテーマとして掲げ、バイオクライマティックデザインをその系譜を踏まえて再定義し、地球環境時代におけるバイオクライマティック建築の可能性を探る。環境建築の良さを理解するには体感することが最も重要である。建築環境を「みつける」ことにより、その経験が「つくる」という設計活動につながる。さらには、建築を「つかう」段階で環境意識を向上させることにより、より豊かな建築環境を「つくる」ことができる。シンポジウムでは、発表セッションにて設計者、使用者、研究者の立場から最新の話題が提供され、総合討論にてこれからのバイオクライマティック建築が目指す方向について議論を深める。

主催：日本建築学会環境工学委員会熱環境運営委員会 第41回熱シンポジウム実行委員会

後援：空気調和・衛生工学会北海道支部・公立大学法人札幌市立大学

日程：平成23年10月28日(金)・29日(土) ※10月30日(日)はオプション・ツアー

会場：札幌市立大学 芸術の森キャンパス C201 教室(200名収容可)

プログラム(発表タイトルには仮題を含む)

■10月28日(金) 午後

開催挨拶・趣旨説明(12:50～13:00)

司会：長谷川兼一(秋田県立大学)

開催校 歓迎の挨拶：酒井正幸(札幌市立大学)

開催挨拶：宿谷昌則(東京都市大学)

趣旨説明：長谷川兼一(前掲)

セッション1(13:00～14:40):バイオクライマティック建築の系譜

司会：須永修通(首都大学東京)

1) バイオクライマティックデザインの定義

須永修通(前掲)

2) 建築環境工学の系譜・建築計画原論

堀越哲美(名古屋工業大学)

3) パッシブクーリングを唱道するPLEAの歩み

木村建一(国際人間環境研究所)

4) パッシブデザインとバイオクライマティックデザイン

小玉祐一郎(神戸芸術工科大学)

5) 工業化住宅の住宅供給と環境共生の考え方

石田建一(積水ハウス)

6) バイオクライマティック建築：これからの思う

宿谷昌則(前掲)

ディスカッション(質疑応答)

セッション2(14:50～16:20):バイオクライマティックデザインをみつける／教育現場の取り組み

司会：齊藤雅也(札幌市立大学)

1) 小学校での環境教育の実践例

小学生児童の温熱認識形成に関する実験研究

鈴木信恵, 宿谷昌則(東京都市大学)

2) 大学での実践例

金子尚志(エステック計画研究所)

3) 環境楽譜の作成に基づく設計課題

片山めぐみ(札幌市立大学), 齊藤雅也(前掲)

4) 住環境プログラムを活用した技術者への環境教育

北瀬幹哉(環デザイン舎)

5) 北方型住宅の設計施工技術者の養成

長谷川寿夫(北海道建築技術協会)

ディスカッション(質疑応答)

セッション3(16:30～18:00):バイオクライマティック建築をつくる

司会：小玉祐一郎(前掲)

1) 環境省エコハウスモデル事業における下川町環境共生型モデル住宅美桑の取り組み

櫻井百子(アトリエmomo)

2) 雨水放射冷房システムの取り組み—冷却塔利用放射冷房によるパッシブ手法の補完—

高橋達(東海大学), 伊藤教子(ZO設計室)

3) 国際教養大学寮

西方里見(西方設計)

4) 親自然な知的作業環境をめざして

財団法人ベタリービングつくば建築試験研究センター試験研究本館

金子尚志(前掲)

5) バイオスキン—高保水性陶器を用いた都市も冷やす外装システムの開発

羽鳥達也(日建設計)

ディスカッション(質疑応答)

■10月29日(土) 午前

セッション4(9:00~10:30):寒冷地にみつける・つくるバイオクライマティック建築 司会:金子尚志(前掲)

- 1) 断熱・気密・換気技術の歩み 絵内正道, 羽山広文(北海道大学), 荒谷 登(メノビレッジ長沼)
 - 2) 居住者が改良し続ける東北のサステナブルハウス 林 基哉(宮城学院女子大学)
 - 3) 動物園と大学の協働による動物舎デザインー札幌市円山動物園「は虫類・両生類館」を事例としてー 斉藤雅也(前掲), 本田直也(札幌市円山動物園), 塚本篤士(札幌市立大学)
 - 4) 光と熱から見た窓設計の課題 北谷幸恵, 鈴木大隆(北方建築総合研究所)
 - 5) 消費エネルギー削減に配慮した建築設計手法 加藤 誠((株)アトリエブंक)
- ディスカッション(質疑応答)

セッション5(10:40~12:10):バイオクライマティック建築をつかう 司会:長谷川兼一(前掲)

- 1) 住宅の断熱改修前後の環境性能と住まい方の変化 内田哲晴・吉野 博(東北大学), 安井妙子(安井妙子あとリエ)
 - 2) コミュニケーション型HEMSの試み 畑 泰彦(積水化学工業)
 - 3) 大学施設におけるエネルギーモニタリングシステムの構築と運用 半澤久, 魚住昌広(北海道工業大学)
 - 4) 環境・行動のローコストモニタリングと空間デザイン 遠田 敦(東京理科大学)
 - 5) エコ改修された中学校校舎の住まい方ー知る・使う・楽しむ、そして居場所づくりへー 丸口弘之(黒松内中学校)
- ディスカッション(質疑応答)

■10月29日(土) 午後

セッション6(13:00~14:50):バイオクライマティックデザインの展開 司会:廣谷純子(こどものためのオープンハウス)

- 1) 北方型ECO住宅の取り組み 北海道の考え方 福島 明(北方建築総合研究所)
 - 2) LCCM(ライフサイクルカーボンマイナス)住宅の考え方 清家 剛(東京大学)
 - 3) ハウスメーカーの考え方 栗原潤一(ミサワホーム総合研究所)
 - 4) 地域による地域建築をどうつくるか 鈴木大隆(北方建築総合研究所)
 - 5) 当麻の家 - 自然と呼応する在りかた - 堀尾浩(堀尾浩建築設計事務所)
 - 6) バイオ建築の適切な運用にむけた専門家と居住者間のコミュニケーション 廣谷純子(前掲)
- ディスカッション(質疑応答)

セッション7(15:00~16:20):総合討論「バイオクライマティック建築が目指す方向」

司会 : 須永修通(前掲)

パネリスト : 鈴木大隆(前掲), 石田建一(前掲), 小玉祐一郎(前掲), 高井啓明(竹中工務店), 丸口弘之(前掲), 宿谷昌則(前掲)

講評(16:20) 木村建一(前掲)

総括・閉会の辞(16:30) 長谷川兼一(前掲)

■参加費 (資料代を含む, 当日受付でお支払い下さい)

会員 6,000 円, 会員外 8,000 円, 事前登録メンバー7,000 円, 学生 1,500 円。

(日本建築学会より領収書を発行します)

※外来者用の駐車場はあり。土曜日は学生食堂を臨時営業。

■申込方法 E-mail (aijkbdb@gmail.com) にて, 「氏名・所属先名・E-mail アドレス・連絡先(住所, 電話番号), 懇親会ならびにオプション・ツアー参加の有無」をご記入の上, お申し込み下さい。

シンポジウムに関する情報は, 小委員会ブログページ(<http://aijkbdb.blog.fc2.com/>) ならびに, 学会 HP に掲示します。

■懇親会

10/28 (金) 19:00-21:00 一般 5000 円・学生 2000 円

「Wa.Bi.Sai 花ごころ 南1条店」(札幌市中央区南1条西2丁目5 南1条Kビル地下1階)

初日のプログラム終了後, 札幌市立大学より懇親会会場まで貸切バスでご案内します。懇親会の終了後, すすきの (メルキュールイン→東急イン) →プリンスホテル→京王プラザホテル札幌→札幌駅北口の順で同じバスでお送りします。大きな荷物はバスのトランクで保管可能 (貴重品は除く)。

■ オプショナル・ツアー

10/30(日) 8:00-15:30

※貸し切りバスにて移動。

札幌駅集合，新千歳空港にて解散。参加費 4,000 円。(昼食代込み)。

見学建物

- ① 札幌市円山動物園 は虫類・両生類館 (札幌市中央区)
- ② 上遠野徹 札幌の家・自邸 (札幌市南区)
- ③ 株式会社アミノアップ化学本社工場 (札幌市清田区)

詳細は、申し込まれた方に別途ご案内します。